



南高

律・啓・創

5 冊 号

進路だより

HOP!

STEP!

JUMP!

平成27年5月1日
福島南高・進路指導部

5月の行事予定

7日(木) 生徒総会 第2回服装頭髪指導	14日(木) 内科検診(2年) 交通安全教室(1年)
8日(金) 結核検診・心電図検査(1年)	15日(金) PTA総会報告会
9日(土) 第2回就職公務員模試(3年) 高体連県北地区予選(~11日)	19日(火) 尿検査
11日(月) 教育実習(~29日) 面接週間(~24日)	20日(水) British Hills 研修(1年国文)
12日(火) 内科検診(3年)	21日(木) 2年進路講演会
13日(水) 内科検診(1年)	26日(火) 防災避難訓練
	28日(木) 保健講話
	29日(金) 高体連県大会(~6月1日)
	6/1(月) 衣替え・第3回服装頭髪指導

センター試験 1月16日まで
・・・あと266日

就職試験開始9月16日まで
・・・あと144日

蛍雪時代の4月号が各教室の棚にあるはずである。その4月号の付録?の蛍雪手帳の和田秀樹氏のコラムを読んだらどうか?まずは3年生に

「受験生とはどんな人を指すのだろうか。そんなことを考えたことはあるだろうか。高校3年生になれば誰でも自動的に受験生になるのだろうか。その答えは否である。受験生とはまず、【志望校がきまっていること】が大前提なのだ。志望校をなかなか決められず、目標に沿った勉強をしていないのに、[いい大学にはいきたい]などという実体のない望みを持っている人も、残念ながら受験生とはいえない。それはただの高校生でしかない。

ただの高校生として、学校生活を全うするのであれば、時間と労力をかけ目標を見つけ自分の実力を徹底的に分析し、さらに受験本番までの計画などを立てる必要もない。しかし、受験生になるということは、学校主体だった生き方を自分主体の生き方に変え、自分の掲げた目標を達成することに他ならない。」

次に1~2年生には次の部分

「まずは、自分は大学で何を勉強したいのか、将来、何を生業として生きていくのか、そこからじっくり考えたほうがいい。【どうしても〇〇になりたい】とか、【何が何でも△△大学に行きたい】といった強い思いがなければ、現実的な計画は立てられない・・・」

3年生は受験生になっているだろうか?

自分の志望校をきめるには「今の自分の成績」で決めてはいけない。勉強すれば学力は上がるし、しなければ下がる。今の自分の偏差値を基準に志望校を決めてしまうと、伸びしろを失う。自分で限界を決めてはいけない。志望校を妥協するからこそ成績が上がらないというパラドックスに気付いてほしい。目標を先に決めて、その目標を達成できるように現状を変えていくことが大切である。

1～2年生が考えるべきことは何か？

進路を選択するとき大切なことは、現時点での好き嫌いに囚われないこと。好きな教科・嫌いな科目・学校の成績と自分の適性は必ずしも一致しない。自分が学びたい学問をよく調べること。同じ名称の学科でも大学によって教育の方針やカリキュラムは違う。様々な角度でしっかりと情報を収集すること。学科系統を少し載せましたので、参考にしてください。まずは自分で調べるのが重要です。

人文科学系統 文学 語学 歴史学 地理学 哲学 心理学 文化学

人間は、言葉・地理・思想・心理・宗教・風俗などバラエティ豊かな文化を築いてきた。こうした多彩な文化に触れて、その意味や価値を理解することが人文科学の目的である。研究対象は人間の内面から、人と人との関係性まで多岐にわたる。

社会科学系統 法学 政治学 経済学 社会学 商学 経営学 社会福祉学

政治や法律・経済、教育などの要素を切り口に社会の成り立ちを様々な角度から検証することで、複雑な現代社会の実態を捉え、社会の未来像を描き、私たちがどう行動すべきかを考える。また、人類が抱える様々な問題に取り組むことも社会科学の役割である。

理学系統 数学 物理学 化学 生物学 地学

観察や実験を通じて、自然界のあらゆる物事を対象に「理(ことわり)」を解明していく。自然界にある物質の特性を分析したり、自然現象の原理や法則性を見つけ出し、理論を確立することが目的。

工学系統 機械工学 電気通信工学 応用物理学 土木建築工学 材料工学 経緯工学 商船学

自然科学の基礎研究(理学)で確立された原理や法則を応用して、実際にモノづくりを行う。社会に利便性や快適性、効率性をもたらすために「応用技術」を研究する。形のある「モノづくり」から形を持たない「技術開発」に分けられる。

農学系統 農学 農芸化学 農業工学 農業経済学 森林科学 獣医学 畜産学 水産学

農業・林業・畜産業・水産業の生産技術をはじめ、農薬や肥料、農産物の保存・加工技術、農地の整備と農業経営、農業機械の技術、農産物の流通・供給と食料開発、獣医学まで幅広い研究領域がある。また、バイオテクノロジーの導入により、品種改良や、自然環境や生態系の保護に関する研究まで拡大している。

医療・保健系統 医学 歯学 薬学 看護学 栄養学 保健衛生学

人間の心身の健康を化学的に研究する。病気の原因の究明、効果的な医薬品の開発、治療法や検査技術の改良、病気やけがになった人の治療、高齢者や身体の不自由な人の世話、病気の流行を防止する衛生的な環境づくり、食生活や生活習慣による健康づくりなどがテーマとなる。

家政系統 家政学 食物学 被服学 居住学 児童学

家事や育児といった「家庭生活」の様々な事柄について、科学的に研究する。もともと家庭の中で親から子へ伝えられてきた「暮らしの知恵」をまとめた実用学として発展した系統である。現在はこれらの知恵や技を科学的な手法を用いて検証する実証的な学問である。家庭の役割を見直すことや家庭を営む生活者の視点から社会の問題を捉えることがテーマになっている。

教育系統 教育学 体育学 教員養成

「教え、育てる」という言葉のとおり、教育では単に知恵や技術を伝えるだけでなく、人間それぞれがもっている個性や能力を引き出すこと、さらに創造性や感受性・やさしさなど人間観を含めた人材養成がテーマである。教える相手の適性や能力を把握できる洞察力を身につけたり、教える内容について研究し、教えるための教授法を習得する。

芸術系統 美術 工芸デザイン 音楽

自分の価値観や主張・個性を絵画・彫刻・デザイン・音楽などによる表現を通じて、自分なりの「美」を追究していくことが目標である。日頃から現代社会や世界の文化からさまざまなものを吸収し、内面を豊かにしておくこと、自らの感性で時代を捉え、それを表現しようとする姿勢が大切である。

さて、4月が終わりました。この1カ月、気持ちを新たに新年度を過ごしていますか？目標はしっかりと立て、実行していますか？学習に対して真剣に向き合っていますか？週末課題などに意欲的に取り組んでいますか？とある本より、いくつか抜粋しましたので、読んでみてください。

① 周囲のレベルは自分のレベル

怠け者でほとんど勉強しない友達と一緒にいるなら、彼らと距離を置いたほうがいい。やる気のない人と一緒にいると、自分までやる気がなくなってしまうものだ。「あいつも勉強していないし、今日はいいや」となってしまう。これに対してやる気のある優秀な生徒と一緒にいると違う。勉強熱心な人と仲良くしていると真面目にコツコツ勉強する姿を嫌でも見せられる。模試や学校のテストで刺激しあい、切磋琢磨できる。

② 勉強の効果は質×量

力が不足している者は、学習の量から逃げるできない。勉強の質を高めるためには、量をこなす形でのトレーニングが必要で、量を少なくするための質の向上は、量をこなしてはじめて達成できる。量をこなせないものが質を語るできない。質をカバーできない分量で補うくらいの意気込みが必要だ。

③ 超朝方生活

朝の5時に起きて8時に家を出るとすると2時間は勉強ができる。4時に起きれば3時間……。朝方のメリットは、何と言っても朝は頭が疲れていない。そして、邪魔が入らない。夜勉強しようとしても、友達からLINEで連絡が来る。見たいテレビ番組があるかもしれない。夜は誘惑がいっぱい。そして朝は締切がある。締切効果が集中力を高める。どの大学も入試は朝の時間から夕方にかけて行われる。夜に実施する大学なんてない。早い時間帯から頭がフル回転している必要がある。

④ 3大やってはいけない勉強法

<～しながら勉強>

テレビを見ながら、音楽を聴きながら勉強するのは気持ち的に楽でしょうが、気を取られてしまい非効率的です。

<教科書・参考書をまとめる>

教科書・参考書といったものは最初からよくまとまっていて、そんなに使いにくいものではないのです。人間の脳みそは1回書き写したくらいで完璧に覚えられるようにはできていないのです。教科書・参考書を読んで、実際に問題を解いて、わからないところがあったらもう一度教科書・参考書を読めばいいのです。

<能力以上に難しい問題に取り組む>

受験勉強において一番重要なのは基礎的な部分です。これができているかどうかで合否が変わってくるといっても過言ではありません。ですから基礎的な部分をじっくりと勉強するようにしたほうがいいです。入試問題は特に1～2年生での内容が大部分なはずですよ。

⑤ 勉強に集中できる場所を確保する

勉強する場所は人によって違うかもしれませんが、一番効率がいいのは「自宅で勉強する」です。自分の部屋だと誘惑がいっぱいあるかもしれませんが、その誘惑に打ち勝って自宅で勉強できるようになっておけば、外部の施設が閉まっている時間にも勉強できます。外だけで勉強するのではなく、家でも勉強できるようにし、「家では勉強しない」という選択肢をなくすことです。